

のり弁おいしいな

つくば市立くり原小 四年

沼田 莉奈

「今日も、よく食べたねえ。」

私は、夏休みほとんど毎日、児童クラブに行っている。両親がとも働きだからだ。でも、友だちに会えるし、お弁当をみんなて食べるのはとても楽しい。

児童クラブから帰ると、真先に、お母さんが調べるのがお弁当箱だ。勉強したプリントは後回し。夏休みのはじめのころは、お弁当を

2

残す目が多かった。私は、好きも嫌いがないから、お弁当に入っている、からあげやミートボールが好きじゃない。温かくないからとかそんな理由じゃなく、何となく食べられないのだ。お母さんは、お弁当のふたを開けるととたん、不機嫌になる。

「また、こんなに残して。」

その言葉を聞くと、や、と家に着いたという気持ちもふ、飛び、とたんに申しわけない気持ちになる。

でも、お母さんも何とか食べさせようとい
ろいろ考えたみただ。

「残すから、おかずは入れません。」

とつぜんせん言されてしま。た。一体、明日

はどんなお弁当になるんたろう。わたしはと

ても不安にな。た。おかずが入らないと言

ことは、ごはんだけ。。。

次の日の朝、お母さんはお弁当のふたを開

けて見せてくれた。

「のり弁です。」

「わあ、おいしそう。」

本当に「ごはんだけだ。た。でも、とてもお

いしそうに見えた。その日は、いつもよりお

弁当の時間が待ち遠しか。た。

「いただきます。」

4
のり弁はとてもおいしか。た。真ん中の方に

ものりが入。ていた。

よく考えると、わたしはおかずはあまり食

べないが、お米のごはんはよく食べる。おに

ぎりは、具が入。ているよりも塩だけてにぎ

たおにぎりが好きだ。き、と、お母さんは、
 私がお米のごはんをよく食べることを分かっ
 ていたので、たくさんお昼ごはんを食べるよ
 うに、のり弁当を考え出したのだと思う。それ
 からは、毎日お弁当を残さず食べるようにな
 った。そう言えば、去年亡くな。たおはあち
 ゃんによく言われた。

お米一つぶには、神様が7人いる。
 これは、私が、お茶わんにごはんつぶを残す
 と、昔の人はお米に神様がいると言。て、お

米を一つぶでもとても大事にしたのだと言う
 ことを話してくれたのだ。小さか。た私はこ
 んな所に7人もいるわけがないと思。てあまり
 話を真けんに聞いていなか。た。でも、毎日、
 ごはんのお弁当を食べるようになった。たし
 かに神様がいる気がしてきた。

これからも、お米一つぶ一つぶを大切にす
 る気持ちをしめすれずに、そして、お弁当を作
 ってくれお母さんに感謝。して、お弁当を
 残さず食べたいと思う。